

2025年11月12日

東京泉陽会

田原 進

第43回「江戸・東京さんぽ」を開催しました

秋晴れの11月8日（金）、年2回恒例の「江戸・東京さんぽ」を開催しました。今回は現在放映中のNHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」ゆかりの地を巡るコース。昭和36年（1961）から昭和54年（1979）卒業までの計22名が参加しました。

ドラマをご覧の方はご存じと思いますが、「蔦重」こと蔦屋 重三郎は江戸中期から後期にかけて出版業で版元として活躍し、各種の本や浮世絵などの普及によって町人文化を盛り上げた人物です。その蔦重の活躍の舞台となった遊郭の地「吉原」やゆかりの名所・神社仏閣をはじめ、地元台東区が開催している展示イベント「大河ドラマ館」を見学しました。

朝10時に台東区の地下鉄「三ノ輪駅」からスタートした主な行程を写真とともにご紹介します。

①浄閑寺（じょうかんじ）

三ノ輪駅からほど近く徒歩約2分にある浄閑寺。ここでは吉原の遊女が多く弔われ、遊女の慰霊碑や吉原を愛した永井荷風の歌碑なども見ることができます。（写真：左－慰霊碑、右－歌碑）



②見返り柳・吉原大門

浄閑寺から徒歩15分ほど、かつて遊郭からの帰り客が名残惜しんで振り返ったといわれる柳の木。現在も植え替えられた柳とともに石碑が建てられています。

見返り柳の交差点を右に折れ100メートル進むと遊郭の出入り口であった「吉原大門」が現れま

す。今は道の両側に赤い柱が建てられているだけです。(写真：左一見返り柳、右一大門)



③江戸新吉原 耕書堂

葛谷重三郎が経営していた「耕書堂」という書店を模した土産物屋です。狭い店内は次から次に訪れる観光客でとてもにぎわっていました。(写真：江戸新吉原耕書堂)



④吉原神社

耕書堂から5分ほど、かつての吉原遊郭を守護していた氏神様があります。この近辺には吉原弁財天本宮や鷲（おおとり）神社があるのですが、今回は時間の都合で立ち寄ることができませんでした。

(写真：吉原神社)



⑤べらぼう 江戸たいとう 大河ドラマ館

吉原神社の次は最後の長丁場、約20分かけて「大河ドラマ館」に移動しました。

同館ではドラマの紹介はもちろん、出演者の写真やサイン、撮影セットの再現、撮影で使われた衣装の展示など、大変盛りだくさんの内容で、参加者の皆さんは大いに楽しんでおられました。

(写真：大河ドラマ館、ロビーでの集合写真、「花魁瀬川」を演じた小芝風花さんの衣装)





⑥ レストランカミヤで昼食会

ドラマ館の後は徒歩5分程度で浅草駅前まで移動し、「明治13年創業、日本最初のバー」といわれる「神谷バー」のレストランで昼食をいただきました。

メニューは、エビフライやハンバーグ、クリームコロッケなどのランチセット。飲み物はビールのほか、神谷バーの代名詞ともいえる「電気ブラン」や「カミヤワイン」などを楽しみました。

昼食会は午後3時にはお開きとなり、外国人観光客であふれ返る浅草の街へと散会しました。(以上)

(写真：天野会長による乾杯の挨拶、乾杯！、電気ブラン)

